

統計だより

県内各市町の統計所管課だより(その15)

東彼杵町役場まちづくり課企画係 光増 俊哉

【東彼杵町の紹介】

東彼杵町は長崎県のほぼ中央に位置し、波穏やかな大村湾とみどり豊かな茶畑に囲まれた自然豊かな町であり、お茶・いちご・みかん・アスパラガスを特産とする一次産業が盛んです。なかでもお茶に関しては、全国茶品評会・蒸し製玉緑茶部門において2017年より4年連続で最高賞の農林水産大臣賞を受賞しており、日本一のお茶として「そのぎ茶」ブランドを確立しています。

また、かつては長崎街道の宿場町として、また平戸街道の起点として、たくさんの商人や武士、時には外国からの来訪者たちで賑わっていた町であり、江戸時代初めから明治にかけての数百年間は、捕鯨と鯨肉取引の中心地として栄え、東彼杵町に陸揚げされた鯨が九州各地へと送られていた歴史を有していることから「くじらのまち」としても知られています。

町内にはこうした街道や鯨にまつわる歴史の面影が各所に残されているほか、旧石器時代の古墳や遺跡なども数多く見ることができ、歴史的に趣深い側面もあります。



図1 東彼杵町内に広がる茶畑



図2 鯨肉をつかったくじら御膳

【そのぎ茶について】

東彼杵町を代表するそのぎ茶は「玉緑茶」という種類に分類され（その他の種類として玉露や煎茶、抹茶などがあります）、茶葉が勾玉のような形状をしており、甘みや旨味が強くまろやかな味わいが特徴です。

また、この「玉緑茶」は長崎県におけるお茶の生産量の約77%^{*1}占めており、長崎県を代表するお茶でもあります。普段何気なく飲んでいるお茶も、長崎県を代表する「玉緑茶」として意識すると、より味わい深く感じるかもしれません。

最後に、4度の日本一に輝いたそのぎ茶の荒茶^{※2}価格について紹介したいと思います。

まず、一般的な玉緑茶について、荒茶価格は1キログラムあたり1,430円^{※1}になります。これに比較して、よく高級なイメージを持たれる玉露の荒茶価格は1キログラムあたり5,746円^{※1}であり、玉露は玉緑茶より約4倍も高く、まさに高級なお茶となります。

それでは、いよいよ「日本一となったそのぎ茶」の荒茶価格を日本一となった年度毎に表にして紹介します。

表1 日本一となったそのぎ茶（荒茶）の落札価格^{※3}

年度	落札単価 (1キログラムあたり)	落札数量	合計落札価格
平成29年度	250,000円	3.7キログラム	925,000円
平成30年度	260,000円	3.6キログラム	936,000円
令和元年度	300,000円	3.6キログラム	1,080,000円
令和2年度	200,000円	3.6キログラム	720,000円

まさに高級を超える、超高級品です。このような日本一の茶葉そのものを使用したお茶を飲むことは難しいかもしれませんが、同じ生産者によって作られたお茶は東彼杵町内で気軽に手に入ります。

また、5月を迎えると新茶が出回る時期になります。今年は新型コロナウイルスの影響により茶市は開催されませんでした。各店舗のホームページ等にアクセスいただければオンラインで新茶を購入することが可能です。ステイホームのお供にほっと一息「そのぎ茶」はいかがでしょう。

【統計調査について】

令和3年度は基幹統計調査である「経済センサス-活動調査」が実施される年です。新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないなかでの調査となりますが、しっかりと感染対策を行い、正確な統計情報が得られるよう努めたいと思います。

【参考資料】

- ※1 全国茶生産団体連合会調べ
- ※2 荒茶とは、製茶され一般的な飲料用の商品となる前の状態のお茶
- ※3 東彼杵町役場農林水産課調べ